

# チャレンジする Someone NEWS

## ～挑戦者の履歴書

### 第19回

## 角川渉氏

(商業施設デザイナー、元・株タック代表)

## 高級店からファミレスまで第3の居場所づくり

一般社団法人 洗楓座 代表理事 佐藤建吉

連載

### ▼店舗デザインがライフワーク

今回は、店舗デザイナーとして活躍してこられた角川渉(つのかわわたる)氏を紹介し、現代の暮らしをデザインすることへのシグキを語りたい。

角川氏は、1960年に、日本大学芸術学部を卒業され、映画美術の仕事に就かれた。その後、1964年には、ライフワークとしての商業施設デザインを専門とする設計事務所を設立、その道で長らく実務をしてこられた。現在80歳、千葉県生まれである。



角川渉氏近影

この仕事を通じて、多くの人と、あるいは施主の経営者と接点を持ち、さらには時世との関わりつつあった。それは、市中や経済と密接な関係があり、現実の

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼デザインした商業施設

角川氏は、大学では舞台美術の設計や演出について学ばれた。そういう訳で一時は映画美術監督に師事したことがあるという。美術創造や表現に携わっていた。ライフワークとしての商業施設デザインを専門とする設計事務所を設立、その道で長らく実務をしてこられた。現在80歳、千葉県生まれである。



角川氏のサバティール二青山店

この仕事を通じて、多くの人と、あるいは施主の経営者と接点を持ち、さらには時世との関わりつつあった。それは、市中や経済と密接な関係があり、現実の

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼切り絵作家・宮田雅之氏との関わり

角川氏の自宅は、千葉県柏市にある。数回訪問させて頂いたが、自ら設計された二戸建ての住宅に利用したことも多い。角川氏は、こうした仕事を通じて理事や役員、団体などの業務や活動も行う。筆者も一般社団法人の理事をお願いした。また、まちづくりのエネルギービジョン策定委員を依頼されたりした。それは、本題の暮らしや生活の居場所づくりに関わっており、同氏の流が続き、兄弟の様な関係が築かれてきたという(後述)。角川氏の資料室には、未公開の作品も所蔵されている。今年、角川氏の作品の管理を依頼されている。筆者は、角川氏から『別冊太陽』宮田雅之の学ぶことは多い。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼デザインした商業施設

角川氏は、大学では舞台美術の設計や演出について学ばれた。そういう訳で一時は映画美術監督に師事したことがあるという。美術創造や表現に携わっていた。ライフワークとしての商業施設デザインを専門とする設計事務所を設立、その道で長らく実務をしてこられた。現在80歳、千葉県生まれである。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼切り絵作家・宮田雅之氏との関わり

角川氏の自宅は、千葉県柏市にある。数回訪問させて頂いたが、自ら設計された二戸建ての住宅に利用したことも多い。角川氏は、こうした仕事を通じて理事や役員、団体などの業務や活動も行う。筆者も一般社団法人の理事をお願いした。また、まちづくりのエネルギービジョン策定委員を依頼されたりした。それは、本題の暮らしや生活の居場所づくりに関わっており、同氏の流が続き、兄弟の様な関係が築かれてきたという(後述)。角川氏の資料室には、未公開の作品も所蔵されている。今年、角川氏の作品の管理を依頼されている。筆者は、角川氏から『別冊太陽』宮田雅之の学ぶことは多い。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

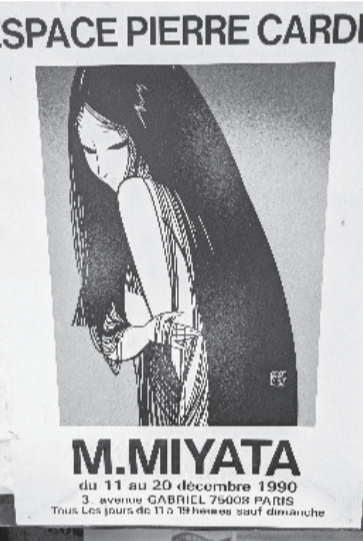
▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。

暮らし、とくに将来へのQ&Aとしての取り組みであった。今回は、そうした時間と空間の創造における角川氏のデザイン遍歴や人生観について、紹介したい。

▼レストランデザイン

角川氏はサバティール二青山店の2店舗のデザイン・設計施工も行っている。同店の施主は加藤幸四郎氏で、歌手・加藤登紀子の父親である。1973年の出会いであるが、2012年には登紀子の母親の99歳の誕生日に、東京で東武百貨店内にフルール・マキシムというフラッグシップショップが、カルダン氏の店舗ミニムスなどを担当した。



角川氏がプロデュースした宮田雅之展(パリ、1990)

その後、知人の宮田氏をサバティール二氏に紹介し、同氏の上半身の切り絵として創作したが、それは東京本店C3番テールの壁に現在も飾られている。

角川氏と宮田氏のこういふ縁は、翌年1982年にパチカン市国を訪ね、ローマ法王、ヨハネ・パウロ二世と拝謁する機会となった。その後、角川氏は法王から「聖ペトロが天国への鍵を持つ指輪」を頂いた。いま角川氏は、この指輪をいつも身につけている(写真)。



クリスチャンの角川氏は、次の言葉を唱えている。平和を求める祈り

主よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使い下さい。憎しみのあるところに愛を、いさかひのあるところをゆるしを、分裂のあるところを一致を、疑惑のあるところを信仰を、誤っているところを真理を、絶望のあるところを希望を、闇に光りを、悲しみのあるところを喜びをもたらして下さい。

その後、知人の宮田氏をサバティール二氏に紹介し、同氏の上半身の切り絵として創作したが、それは東京本店C3番テールの壁に現在も飾られている。

角川氏と宮田氏のこういふ縁は、翌年1982年にパチカン市国を訪ね、ローマ法王、ヨハネ・パウロ二世と拝謁する機会となった。その後、角川氏は法王から「聖ペトロが天国への鍵を持つ指輪」を頂いた。いま角川氏は、この指輪をいつも身につけている(写真)。

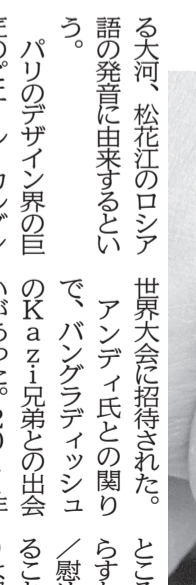


クリスチャンの角川氏は、次の言葉を唱えている。平和を求める祈り

主よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使い下さい。憎しみのあるところに愛を、いさかひのあるところをゆるしを、分裂のあるところを一致を、疑惑のあるところを信仰を、誤っているところを真理を、絶望のあるところを希望を、闇に光りを、悲しみのあるところを喜びをもたらして下さい。

その後、知人の宮田氏をサバティール二氏に紹介し、同氏の上半身の切り絵として創作したが、それは東京本店C3番テールの壁に現在も飾られている。

角川氏と宮田氏のこういふ縁は、翌年1982年にパチカン市国を訪ね、ローマ法王、ヨハネ・パウロ二世と拝謁する機会となった。その後、角川氏は法王から「聖ペトロが天国への鍵を持つ指輪」を頂いた。いま角川氏は、この指輪をいつも身につけている(写真)。

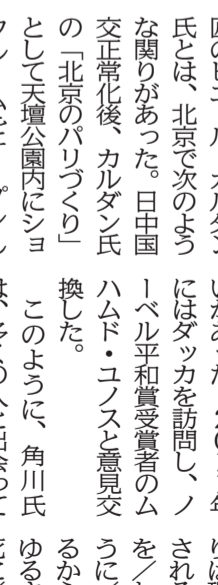


クリスチャンの角川氏は、次の言葉を唱えている。平和を求める祈り

主よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使い下さい。憎しみのあるところに愛を、いさかひのあるところをゆるしを、分裂のあるところを一致を、疑惑のあるところを信仰を、誤っているところを真理を、絶望のあるところを希望を、闇に光りを、悲しみのあるところを喜びをもたらして下さい。

その後、知人の宮田氏をサバティール二氏に紹介し、同氏の上半身の切り絵として創作したが、それは東京本店C3番テールの壁に現在も飾られている。

角川氏と宮田氏のこういふ縁は、翌年1982年にパチカン市国を訪ね、ローマ法王、ヨハネ・パウロ二世と拝謁する機会となった。その後、角川氏は法王から「聖ペトロが天国への鍵を持つ指輪」を頂いた。いま角川氏は、この指輪をいつも身につけている(写真)。

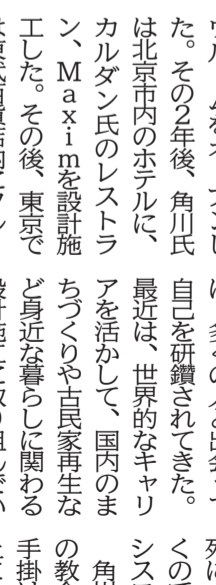


クリスチャンの角川氏は、次の言葉を唱えている。平和を求める祈り

主よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使い下さい。憎しみのあるところに愛を、いさかひのあるところをゆるしを、分裂のあるところを一致を、疑惑のあるところを信仰を、誤っているところを真理を、絶望のあるところを希望を、闇に光りを、悲しみのあるところを喜びをもたらして下さい。

その後、知人の宮田氏をサバティール二氏に紹介し、同氏の上半身の切り絵として創作したが、それは東京本店C3番テールの壁に現在も飾られている。

角川氏と宮田氏のこういふ縁は、翌年1982年にパチカン市国を訪ね、ローマ法王、ヨハネ・パウロ二世と拝謁する機会となった。その後、角川氏は法王から「聖ペトロが天国への鍵を持つ指輪」を頂いた。いま角川氏は、この指輪をいつも身につけている(写真)。

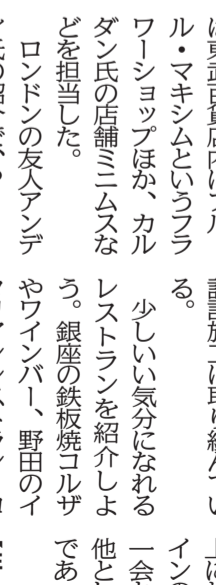


クリスチャンの角川氏は、次の言葉を唱えている。平和を求める祈り

主よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使い下さい。憎しみのあるところに愛を、いさかひのあるところをゆるしを、分裂のあるところを一致を、疑惑のあるところを信仰を、誤っているところを真理を、絶望のあるところを希望を、闇に光りを、悲しみのあるところを喜びをもたらして下さい。

その後、知人の宮田氏をサバティール二氏に紹介し、同氏の上半身の切り絵として創作したが、それは東京本店C3番テールの壁に現在も飾られている。

角川氏と宮田氏のこういふ縁は、翌年1982年にパチカン市国を訪ね、ローマ法王、ヨハネ・パウロ二世と拝謁する機会となった。その後、角川氏は法王から「聖ペトロが天国への鍵を持つ指輪」を頂いた。いま角川氏は、この指輪をいつも身につけている(写真)。

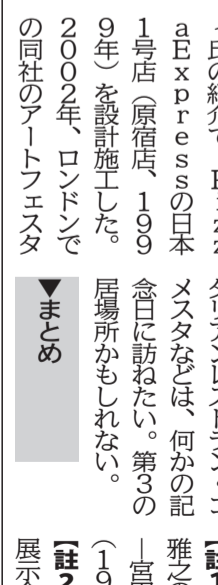


クリスチャンの角川氏は、次の言葉を唱えている。平和を求める祈り

主よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使い下さい。憎しみのあるところに愛を、いさかひのあるところをゆるしを、分裂のあるところを一致を、疑惑のあるところを信仰を、誤っているところを真理を、絶望のあるところを希望を、闇に光りを、悲しみのあるところを喜びをもたらして下さい。

その後、知人の宮田氏をサバティール二氏に紹介し、同氏の上半身の切り絵として創作したが、それは東京本店C3番テールの壁に現在も飾られている。

角川氏と宮田氏のこういふ縁は、翌年1982年にパチカン市国を訪ね、ローマ法王、ヨハネ・パウロ二世と拝謁する機会となった。その後、角川氏は法王から「聖ペトロが天国への鍵を持つ指輪」を頂いた。いま角川氏は、この指輪をいつも身につけている(写真)。



クリスチャンの角川氏は、次の言葉を唱えている。平和を求める祈り

主よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使い下さい。憎しみのあるところに愛を、いさかひのあるところをゆるしを、分裂のあるところを一致を、疑惑のあるところを信仰を、誤っているところを真理を、絶望のあるところを希望を、闇に光りを、悲しみのあるところを喜びをもたらして下さい。

▼まとめ

【註1】『別冊太陽』宮田雅之の切り絵「八大伝」

一宮田雅之追悼記念号(1998年)

【註2】『八大伝の世界』展(不図録)(2008年)